

第5学年1組 図画工作科学学習指導案

【日時】令和7年7月23日(水) 10:20～11:05 【場所】5の1教室 【指導者】中野 秀敏

本授業の参観の視点

児童一人一人が自分の思いに合わせて、絵や立体、工作から表し方を選択し、自分だけの表現に向き合います。造形的な資質・能力を総合的に発揮し、表現に没頭する児童の姿をご覧ください。

1 題材名 アートで変身 ～5の1教室をすてきな空間につくりかえよう～

2 題材の構想

(1) 題材について

本題材は、「5年1組の教室をすてきな空間につくりかえたい」という思いを絵や立体、工作に表現する題材である。新年度になって約4カ月が過ぎ、学級への帰属意識も高まっている時期であり、児童一人一人の思いを反映した表現へとつながることが期待される。

また、児童は5年間の図画工作科の学びを通して様々な資質・能力を身に付けてきている。自分の思いに合わせて表し方を選択し、身に付けた資質・能力を発揮することで、児童は自分の思いを自分らしく表現することができるだろう。例えば、「絵に表す」を選択した場合であれば、学級をより明るくするポスターを描いたり、美しい模様を描き、壁面に飾ったりするなど多様な表現が生まれることが予想される。これは「立体に表す」「工作に表す」を選択した場合も同様である。児童は自分の思いと選択した表し方から、自分に合った描画材や材料、場所等を工夫しながら造形活動に向き合い、自分らしい表現を見付けていくだろう。このように児童が選択できる自由度が高い題材を設定することにより、今までに培ってきた造形的な資質・能力がさらに磨かれることが期待できる題材である。

(2) 児童について

5月に行った「図工の学習は好きですか」というアンケート項目に対して、33名(100%)が好意的な回答であった。好きな理由として「自由に発想できることが楽しい」と答えている児童が多く、自分で表現方法を選択し、作品をつくることに喜びを感じていることが分かる。一方、授業では発想や構想の段階で悩む児童も見られるが、「マイアートマップ」を作成し、見通しを立てながら活動することで発想や構想についての造形的な経験を積んでいる段階である。

5月実践「心のもよう」では、様々な用具に触れながら自分の気持ちについて考え、自分の心を抽象的に表現する経験を積んでいる。6月実践「あんなところがこんなところに」では、自分で活動場所を選択し、場所や空間の特徴を生かしながら、思い思いの材料を用いて、面白く見えるように空間をつくりかえることができた。このように児童は、抽象的な表現にも取り組むようになり、自分自身で表現方法や活動場所などを選択しながら学び、造形的な資質・能力を育んできている。

(3) 指導について

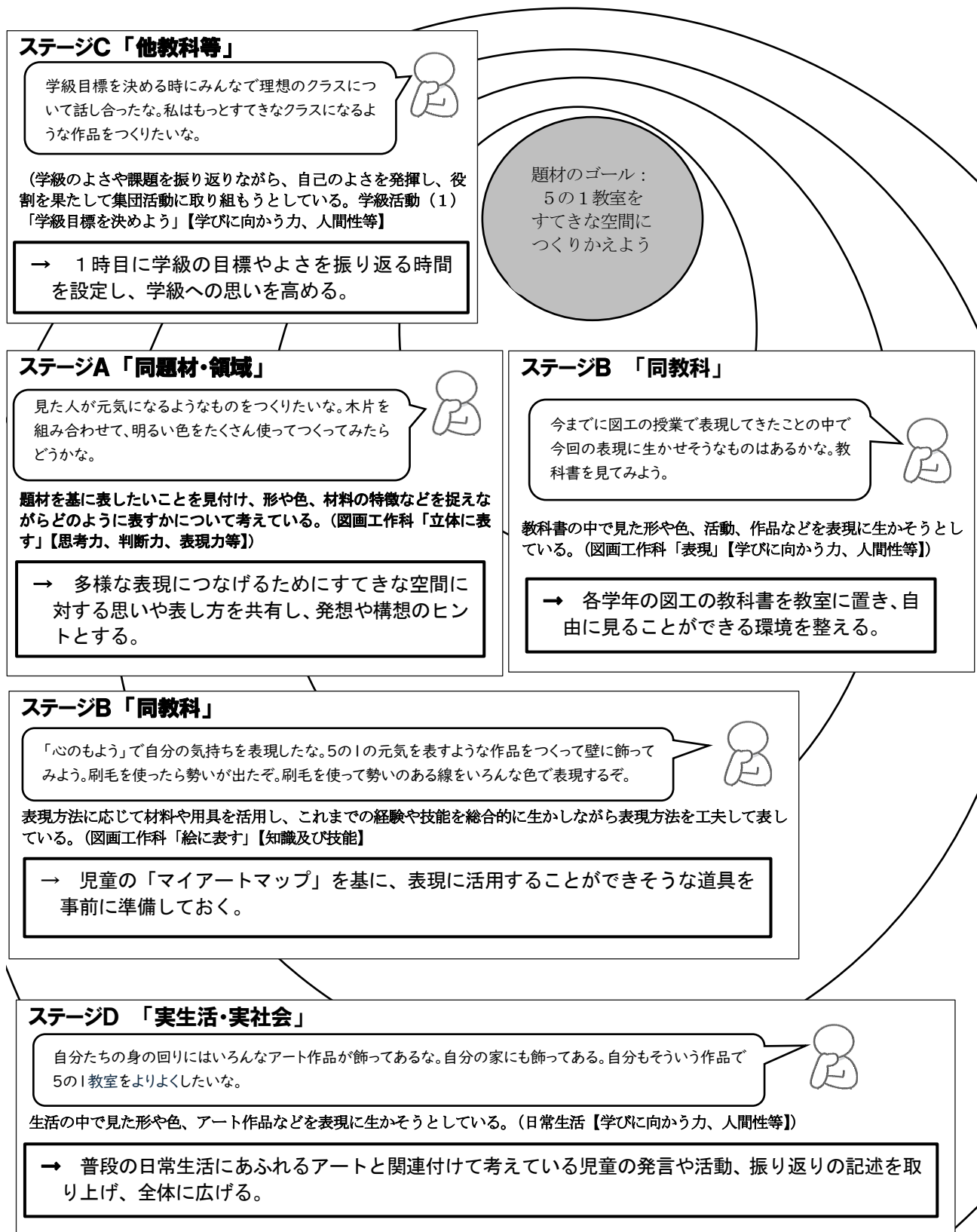
第一次では、児童が学級への思いを高め、活動へのイメージを広げることを大切にする。そのために、学級の目標やよさを振り返る場を設定し、学級への思いを全体で共有する。そして、その思いを表していた前題材の児童の作品を紹介し、その児童の思いに触れることを通して、「アートで教室をすてきな空間につくりかえる」という題材の目標を設定していく。その後、「マイアートマップ」を作成しながら活動への見通しを立てていく。児童が多様なアイデアの中から自分に合った表し方を選択したり、新たな活動を思い付いたりすることができるように「題材デザインシート」や「マイアートマップ」を基に環境を整え、支援を行っていく。

第二次では、児童が自分の表現したいことに合わせて表し方を選択し、自ら活動を展開することができるようにする。そのために教師は、児童の活動中の姿と共に、「マイアートマップ」を手掛かりに児童の思考を見取るようにする。本題材では、様々な活動が展開されることが予測されるため、活動中の姿だけでは児童全員の思考を見取ることが難しい。「題材デザインシート」での予測や、「マイアートマップ」を見取りの手段の一つとすることで、一人一人に応じた手立てが可能になると考える。手立てとしては、特に共感や称賛の言葉かけを大切にしていく。そうすることで、児童が発揮している知識・技能、

発想や構想の広がりや自覚したりすることができるようにする。その他にも、その児童の表現に合うと思われる材料を提示したり、イメージが広がりそうな児童同士をつないだりするといった支援を行うことで、造形活動の活性化を図りたい。

(4) 期待する「回遊する学び」について

本題材及び本時における児童の姿を小学校全体テーマの「回遊する学び」に関わる内容と資質・能力に関連付け、下記のように整理する。



3 題材の目標と評価規準

(1) 題材の目標

感じたことや想像したことから表したいことを見付け、自分の思いに合わせて表し方を選択したり、これまでに身に付けてきた資質・能力を総合的に発揮したりしながら表現することができるようにする。

(2) 評価規準

ア 表現する時の感覚や行為を通して、形や色の美しさや面白さなどに気付く。また、表現方法に応じて材料や用具を活用し、これまでの知識・技能を総合的に生かしながら表現方法を工夫して表す。

【知識・技能】

イ 題材を基に感じたことや想像したことから表したいことを見付け、形や色、材料の特徴などを捉えながらどのように表すかについて考えている。また、自分たちの作品の造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴について感じ取ったり考えたりして、見方や感じ方を深めている。【思考・判断・表現】

ウ つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり、楽しく豊かな生活を創造しようとしている。

【主体的に学習に取り組む態度】

4 題材の指導計画（全6時間 本時4／6時間目）

次	時	主な学習活動（○）	指導上の留意点（・）	評価規準（◆）【観点】	回遊
一	1 2	○教室をよりすてきな空間につくりかえたいという思いをもつ。 ○「マイアートマップ」を作成し、活動の見通しをもつ。	・学級の目標やよさを振り返る時間を設定し、共有することで活動への思いを高める。 ・「マイアートマップ」を作成することを通して、児童が自分の活動を見通したり、振り返ったりすることができるようにする。また、教師が児童一人一人の思いを見取ることができるようにする。	◆題材を基に感じたことや想像したことから表したいことを見付け、どのように表すかについて考えている。【思・判・表】	A B C D
二	3	○表したいことに合った表現方法を選択し、材料、形や色などを考えて表現する。	・児童の思いに合った表現を試すことができるように、様々な材料や用具を準備する。 ・事前に「マイアートマップ」を確認しておくことで児童の思いを把握し、思いを表現につなげることができない児童に対しては、材料提示などの支援を行う。	◆表したいことに合う材料や形、色などを選択しながら、どのように表すかについて考えている。【思・判・表】	A B C
	4 本時	○これまでに身に付けてきた資質・能力を発揮し、イメージに合うように工夫して表現する。	・活動場所を自由に選択してよいことを伝え、児童同士が自由に交流できるようにする。 ・前時までの活動や「マイアートマップ」を事前に確認し、一人一人に応じた支援や言葉かけを行う。	◆表したいことに合わせて、材料や用具を選択し、自分なりに工夫して表現している。【知・技】	A B C
	5 6	○新たな表現を組み合わせた、友達との表現の工夫を取り入れたりしながら、自分のイメージに合うように表現する。 ○教室内の作品を鑑賞し合い、つくりだす喜びを味わう。	・児童がつくりだす喜びを感じられるように、前時までの活動や「マイアートマップ」を基に一人一人の活動の変容を把握し、共感や承認の言葉かけを行う。 ・つくった作品同士を組み合わせて掲示しようとする児童がいた場合は、その姿を称賛し、作品同士の組み合わせを考えるきっかけとする。 ・教室内の友達の作品を鑑賞する時間を設定し、一人一人の表現が教室をよりよく変化させたことに気付くことができるようにする。 ・鑑賞の際には、対話しながら作品を見ることを勧めることで、児童の思いに触れながら作品を鑑賞することができるようにする。	◆表したいことに合わせて、材料や用具を選択し、自分なりに工夫して表現している。【知・技】 ◆材料や用具、形や色などを組み合わせながら、自分のイメージした表現に近付けるために進んで活動に取り組もうとしている。【主】 ◆自分たちの作品の造形的なよさや美しさ、表現の意図を感じ取り、見方や感じ方を深めている。【思・判・表】	A B C D

5 本時の指導（4／6）

(1) 指導目標

教室をすてきな空間につくりかえるために、絵や立体、工作から表し方を選択し、その内容に合わせて資質・能力を発揮しながら表現できるようにする。

(2) 評価規準

ア 表したいことに合わせて、材料や用具を選択し、自分なりに工夫して表現している。【知識・技能】

(3) 展開（波線部は「回遊する学び」に関わる手立て）

学習活動と児童の反応（「」）	教師の働きかけと形成的評価（◆）
1 前時までの活動を振り返り、本時の見通しをもつ。（5分） - 今日は壁に飾る模様を組み合わせていこう。5の1の成長を表したいな。 - 見た人が元気になるようなものを使って表すんだっただ。今日は木片を組み合わせるぞ。 - 落とし物入れをつくるぞ。丈夫につくって長く使えるようにしたいな。	1-(1) 1時目で共有した学級の目標やよさを振り返ることを通して、題材のゴールを確認し、児童が意欲的に活動することができるようにする。（C） 1-(2) 前時までの「マイアートマップ」を確認し合うことで活動の見通しにつなげる。また、いつでも「マイアートマップ」を見られるようにすることで、児童が必要に応じて活動の手掛かりにしたり、活動の記録を残したりすることができるようにする。（AB）
5の1教室をすてきな空間につくりかえよう。	
2 自分なりに工夫をしながら表現する。（30分） - どうやったら壁に飾る模様が成長のイメージになるかな。形や色をたくさん試してみよう。 - 見る人が元気になるようなオブジェにしたいな。いろいろな木片があるから、イメージに合うように組み合わせてみよう。 - 丈夫な落とし物入れにするために、ちょうどよい長さの釘をまっすぐ打ち込むぞ。 5の1の仲のよさが伝わる作品を飾りたいな。そのような仲のよさが伝わるポスターをかくぞ。明るい雰囲気になるような構図にして、鮮やかな色で塗ってみよう。 - 実際に作品を飾ってみると飾った時の感じが分かるぞ。もう少し色を鮮やかにすると5の1教室が明るくなりそうだ。 - 友達につくってるものと一緒に飾ることもできそうぞ。どんな組み合わせがいいかな。 - 自分の思いを表現するためには、他にどんなことができそうかな。みんなの「マイアートマップ」を見てみよう。	2-(1) 「題材デザインシート」や「マイアートマップ」を基に、様々な材料や用具、活動場所を想定しておくことで、児童が表したいことに合った表現を選択することができるようにする。（AB） 2-(2) 活動場所を自由に選択してよいことを伝え、児童同士が自由に交流することができるようにする。 2-(3) 前時までの活動や「マイアートマップ」を事前を確認しておくことで、言葉かけや材料の提示等、一人一人に応じた手立てを行うようにする。（AB） ◆ 表したいことを表現するために、表し方を試したり、形や色を工夫したりしている。 （観察、マイアートマップ）【知・技】 B 様々な材料を試したり、形や色を工夫したりして表現している。 C→ 児童の思いを対話しながら引き出し、似たような思いをもつ児童を紹介したり、材料を提示したりしながら活動を共に考える。 2-(4) 制作途中の作品を実際に教室に飾りながらイメージを確かめている児童の姿を称賛することで、場所の特徴を生かした表現も考えることができるようにする。（AB）
3 本時の活動を振り返る。（10分） - 明るい感じにするために色の工夫ができた。これで5の1教室がもっとすてきになるぞ。 - いろいろな形の木片を組み合わせたことができたぞ。次は元気な感じの色で塗りたいな。 - 友達の作品もいいな。この作品が集まるとすてきな5の1教室に変身しそうだ。 - よりよくするためにイメージに合う材料を新しく準備しよう。	3-(1) 「マイアートマップ」を基に本時の表現を振り返ることで、児童がつくりだした喜びを味わうことができるようにする。（A） 3-(2) 本時の活動を友達同士で紹介し合う場面を設定することで、互いに本時の学びを認め合うことができるようにする。また、多様な表し方に気付くことができるようにし、次時への意欲を高める。

